

森は海の恋人（2）

今年の1月のTV NHK ドキュメンタリー「カキと森と長靴と」という番組で前回ご紹介した気仙沼の牡蠣養殖の漁師さんが登場していました。お名前は畠山重篤さん。

太平洋戦争敗戦後建築資材確保の為、全国の広葉樹林を伐採し杉・檜などの針葉樹を植林する政策が国策としてとられましたが、海外から安価な材木が輸入できるようになり日本の林業は一気に衰退します。間引きや枝打ちが必要な針葉樹はコストが掛かり結果的に日本の針葉樹の人工林はほったらかしにされ、葉が生茂り陽の当たらない栄養価の乏しい森になってしまいました。

気仙沼では「森は海の恋人」活動で漁師さんが森に入って植樹することによって、上流の森は落葉広葉樹林に再生され、豊富な栄養分が川を伝って供給されて舞根湾の養殖牡蠣はブランド牡蠣になるほどに良く育ち、事業としては順風満帆となりました。

ところが7年前の3.11でとんでもないことに…

気仙沼にも巨大津波が襲い、海岸沿いの家屋は9割が流され、牡蠣筏は全滅しました。

海の中は瓦礫で埋まり透明度もなくなりもう生き物が棲める環境ではなくなったと、牡蠣漁師さんは立ち直れない絶望感に包まれたそうです。

そこに京都大学の水産学科の教授たちがやって来て舞根湾の水質検査をするのです。どうして京大の先生達が来たかというと、森は海の恋人活動が認められて、畠山重篤さんは京大の「フィールド科学教育研究センター」の教授になっていたのです。高卒の漁師さんを教授に迎えるとは京大も変わった大学ですね。

水質検査をした京大の先生が実際に海にも潜って叫ぶのです。

「牡蠣が喰い切れないほど植物プランクトンがいる！」

どうしてそうなったのか？

僕には学校の先生のように上手く説明ができませんが、養殖をしている海の底が津波によって掻き回され拡散された事が良かったらしく、そこに落葉広葉樹林から流れてくるフルボ酸鉄を多く含む健全な川の水によって植物プランクトンが大量に発生したのだそうです。

早速牡蠣の養殖を始めた畠山重篤さんは半年経った養殖牡蠣を引き上げてびっくり！3年かかって育つほどの大きさにたった半年で育っていたのだそうです。

次回は京大フィールド科学教育研究センターについて書きたいと思っています。

推薦 web ビデオ：京都大学春秋講義「大震災後の森里海の連環を考える」

https://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/field-science-education-and-research-center/opencourse/16/video_pages/series03

TENSION 井上好司